

抗がん剤の副作用症状を 伝えることが 症状緩和の第一歩

がん化学療法看護認定看護師 足立 美早紀

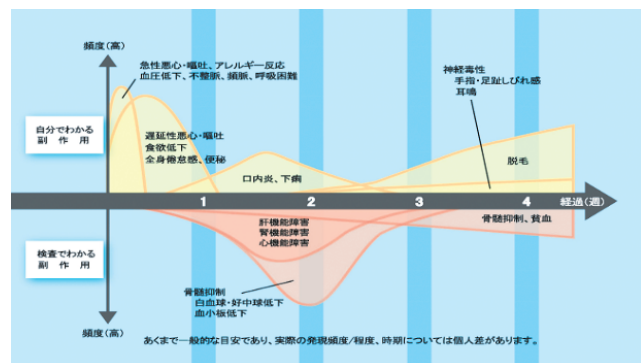
抗がん剤には、内服薬（飲み薬）と注射薬があります。治療は、抗がん剤を投与する日と休む日を計画的に組み合わせ、繰り返し行っています。

近年、抗がん剤治療は、入院から外来での治療へと移行しています。当院でも初めて抗がん剤を使う時は、入院で治療を行い、その後、外来通院で治療を行っています。そのため、患者さんは【嘔気、何を食べても美味しくない、手足のしびれ、下痢、便秘、発熱、貧血、体のだるさ、脱毛など】の副作用症状と付き合いながら自宅で生活をしていく必要があります。

私は病棟に勤務しています。患者さんやご家族の方が退院後も不安なく生活が送られるように、抗がん剤の副作用や対処方法についてお話しをさせてもらっています。あらかじめ予想される副作用を知っておくことで、心の準備ができ、過剰な不安を取り除けます。自宅で実際に副作用が起こったときにも、早く適切に対処することで、症状が重くなるのを防ぐことができますので、副作用症状の出現時期と対処につなげるためのポイントをご紹介します。

副作用症状の出現時期は？

抗がん剤の副作用は、図1のような経過で出現します。

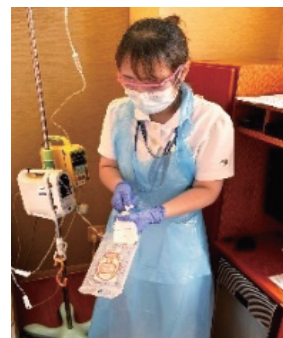


【図1】

国立がん研究センターがん情報サービス ganjoho.jp より一部抜粋



治療中、血圧低下や呼吸困難や吐き気などの副作用が出現した場合には、速やかに対処します。図1のように、数日後から食欲不振や嘔気・下痢・便秘などが出現することがあります。また2週間後には骨髄抑制（口内炎、発熱、貧血）などの出現も起こす可能性があります。副作用症状は薬の種類や量など個人差があり、対処法も異なります。そのため、医師・薬剤師・栄養師・ソーシャルワーカーなど多職種と情報共有し、副作用症状などの不安が少しでも軽くなるようサポートしていきます。



伝えてほしい副作用症状 !!

自宅で副作用症状が出現して辛い思いをしていますか。外来受診のときや入院中に副作用の出現時期や症状を医師や看護師に伝えることで、次の治療の間隔や量などを調整するものさしになります。忘れないように日記やメモに残し外来受診時や入院中に医師・看護師に伝えてください。